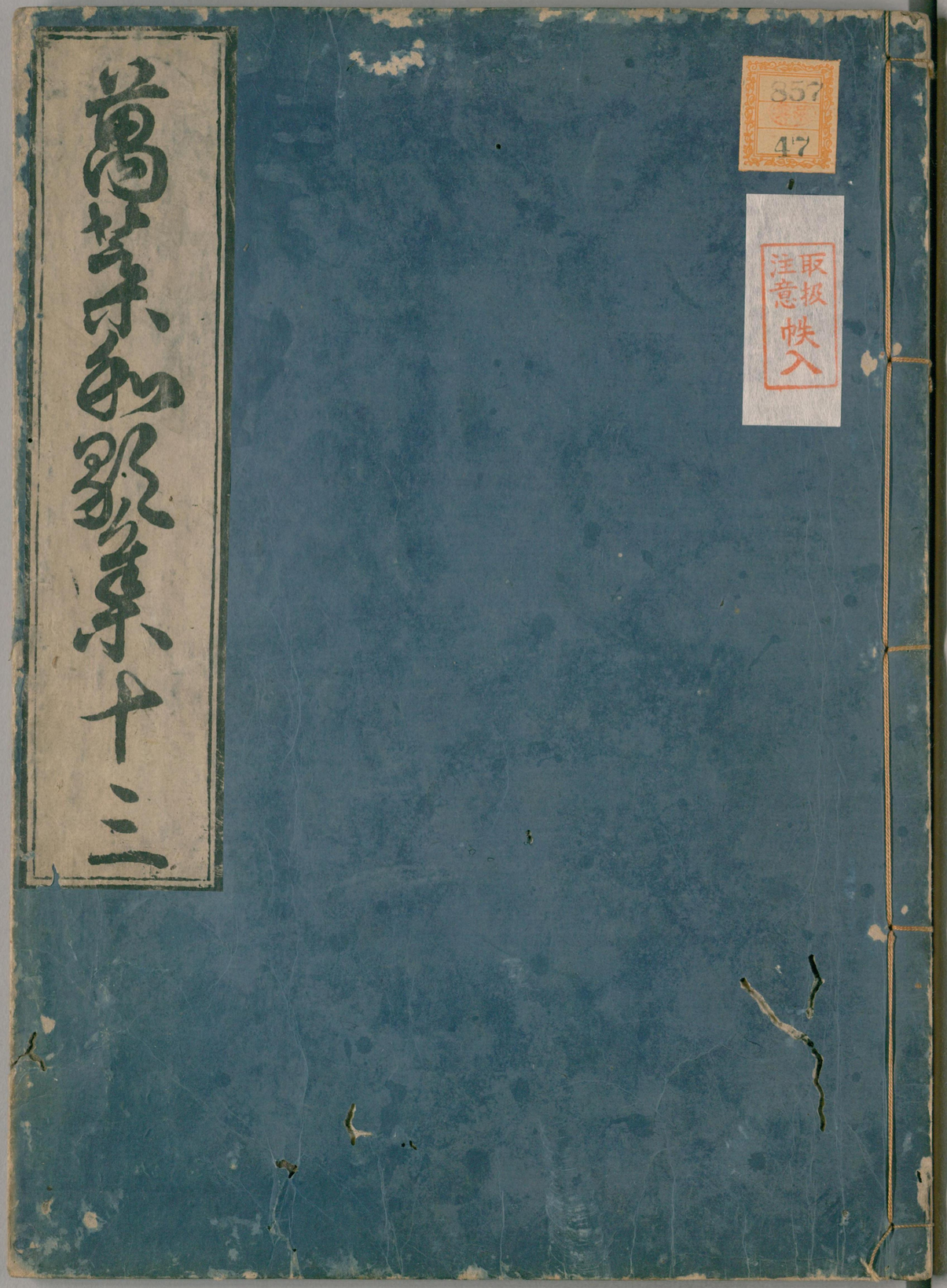


857
47
取扱注意
帙入

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

萬葉集卷第十三

雜歌二十七首　長六十六首　短六十一首　旋頭一首　合百三十八首

本是中長哥十六首　旋頭一首

相聞歌五十七首　本長哥廿九首　又哥廿八首

問荅歌十八首　長七　本但哥數廿首

譬諭歌一首　長

挽歌二十四首　本是中長哥十三首　又哥十一首

857-47

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

春露ヲヨメリ

神代紀 後手振

神南ノミムロニハ非ス三輪山

雜歌 是中長歌十六首

六帖ニハ此類ノ短ヲ小長哥ト標セリ

冬木成春去來者朝爾波白露置夕爾波霞多奈妣久汗湍能振樹奴禮我之多爾鸎鳴毋

右一首

三諸者人之守山本邊者馬醉木花開末邊方椿花開浦妙山曾泣兒守山

右一首

霹靂之日香天之九月乃鍾禮乃落者鴈音文

国立国会図書館 タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

未來鳴神南備乃清三田屋乃垣津田乃池之
…枝丹水枝指秋赤葉眞割
持小鈴文由良爾手弱女爾吾者有友引攀而
峯文十遠仁捄手折吾者持而往公之頭刺荷

反歌

獨耳見者戀染神名火乃山黄葉手折來君

此一首入道殿讀出給

右二首

天雲之影寒所見隱來笑長谷之河者浦無蚊
船之依不來礒無蚊海部之釣不為吉咲八師
浦者無友吉畫矢寺礒者無友奥津浪淨撈入
來白水郎之釣船

反歌

沙邪禮浪浮而流長谷河可依礒之無蚊不怜
也

右二首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

未來鳴神南備乃清三田屋乃垣津田乃池之
堤之百不足三十槻枝丹水枝指秋赤葉眞割
持小鈴文由良爾手弱女爾吾者有友引攀而
峯文十遠仁梂手折吾者持而往公之頭刺荷
反歌
獨耳見者戀染神名火乃山黄葉手折來君
此一首入道殿讀出給
右二首

天雲之影寒所見隱來笑長谷之河者浦無蚊
船之依不來礒無蚊海部之釣不爲吉咲八師
浦者無友吉畫矢寺礒者無友奥津浪淨榜入
來白水郎之釣船
反歌
沙邪禮浪浮而流長谷河可依礒之無蚊不怜
也
右二首

平日本ニ三公ケ丁ヨリ是ヲ祭ルト云ヘリ是ヲ以テ神ニ坂ヲ奉ルニ宜シカラヌ神ヲ祭ルニ心ニ云

中ニ水ノ早キ故ニ水ノ出ル者息ヲヌメタモツコアルヌヲ云ヘリ

兵器ヲ以神ヲ祭始ル事ニ紀二十七年又令ニ鮮ニ男神ニ劔太刀女神ニ楯ノ具ヲ奉ルヨシ云

アレハラノ　神代紀上云　三ツホノクニ　タムケスト　アモリマシケムイホ

葦原笑水穂之國丹手向爲跡天降座兼五百

ヨロツチ　ヨロツカミノ　カミヨ　ヨリイヒツギキ　取アルカミナ　ヒノミモロノ

萬千萬神之神代從云續来在甘南備乃三諸

ヤマハ　ハルサレハ　ハルカスミタチアキユケハ　秋ハクレヤ世ニホフ　カミナヒ

山者春去者春霞立秋往者紅丹穂經甘嘗備

ノミモロノ　カミノ　キニセル　アスカノカハノミヲ　ハヤミイキオニ

乃三諸乃神之帶爲明日香之河之水冝速生

メナタキイハ　同中ノ石ノ瀬枕ナトニモ瀬ニ水ノ高キヲ云テ　カラヨ世ノ　ヨルユキカヨハムスキ　コト

多米難石枕蘿生左右二新夜乃好去通牟事

ハカリロメニ　ミセ　根　コソツルキタチイハヒニツラスカニシ

計夢爾令見社劔刀齋祭神二師座者

（夢ニ其由ヲノメレ玉ヘトミムロノ神ニ申ヘ）

反歌

冝仁天王廿七年秋八月朝己卯令祠官卜兵器爲神幣吉之故弓矢及横刀納諸神之社仍更定神地神戸以時祠之蓋兵器祭神祇始自於是時也

カミナヒノミ　ムロノヤマニ　カクサルスキ　メヤコケムス

神名備能三諸之山丹隠藏杖思將過哉蘿生

石走　神功紀此雷電ヲ石ニサクル心ナリ

左右　思ヒ遠ルトハ忘ル思ニスサヌヘハ忘レヌヘシ　第九　神ヒノ神ヨリ枝ニ入ル枝ノ思ヒモスキス忘ノレケキニ

イヤ云仙覚ヘハ発語トイヘリ不用　グシテタテ　ミワ　スエヒツルカミヌシノウヅノタヽカゲミレハ

反歌

短歌一首無有載之也　ヒトツ

ミテグラヲ　持テトルニ手ニ青ニヲケ稼ニタスキヲカケ稼ニモタスル　ナラヨリイテヽ　ミツタテノホソヒ　大ニ

帛叫楢從出而水蓼穂積至鳥網張坂手乎過

イハハシルカ　三十高市郡ヒ　ヤマニ　アサミヤマツ

石走甘南備山丹朝宮仕奉而吉野部登入座

見者古所念

反歌

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

平日本ニ云ク上ヨリ是ニ至ルマデ神ニ坂ヲ奉ルニ心ヒカ遠ヘリアレキ神ヲタヒラケ心ニ云

中云水ノ早キ故ニ水ノ心ヲ者息ヲヌメタモツヲヌヌヨリ

妻ヲ以神ヲ奈始重仁伯二十七年又令祓解二男神ニ劔太刀女神ニ鏡ノ具ヲ奉ルヨレヨ

アレハラノ 三ツホ ノクニ ヽ タムケスト アモリニシケムイホ
葦原笑水穂之國丹手向爲跡天降座兼五百
（神代紀ニ云）
ヨロツチ ヨロツカミノ カミヨ ヨリイヒツギキ取ルカミナ ヒノ ミモロノ
萬千萬神之神代從云續来在甘南備乃三諸
ヤマハ ハルサレハ ハルカスミタチアキユクヘハ 未ク久ノ行ニモ有ヘシ クヤ世ニ ホ フカミナ ヒ
山者春去者春霞立秋往者紅丹穂經甘嘗備
ノ ミモロノ カミノ キヌ（殿）ニセル アスカノカハノ ミヲ ハヤミイキ オヒニ
乃三諸乃神之帶爲明日香之河之水尾速生
タメ ナタキイハ（同中ノ石ヘ瀬杭ナトニモ瀬ニ水ノ高キ）カヨヒ ケムスト テ ニ
多米難石枕蘿生左右二新夜乃好去通牟事
ハカリロメニ ミ 根 コソツルキタチナイハヒ テ
計夢爾令見社劔刀齋祭神二師座者
（夢ニ其由ラシメレ玉ヘトミムロノ神ニ申ヘ）
反歌
（垂仁天王廿七年秋八月朔己卯令祠官ト兵器ヲ爲ニ神ノ幣ニ吉之故ラ矢及横刀納ヘ諸ノ神之社仍更定神地神戸又時祠之盖兵器祭神祇始矣於是時也）
神名備能三諸之山丹隱藏牧思將過哉蘿生
カミナヒノ ミ ムロノ ヤマニ カクレスキ ヲコケムス

左右 思ヒ過ルトハ忘ル思ニスサメヘ忘レヌ
（卅九 神十七ノ神ヨリ枝ニスル枝ノ思ニモスキス忘ノレシケキニ
イヲ云仙覚ヘイハ発語トイヘリ不用
グシタテ ミワ スエツルカミヌシノウズノタマカゲミレバ
五十串立神酒座奉神主部之雲聚玉陰見者
（幣ニクシニハサミテ神ヲ祭ヘ）
乞文
和名抄調度部鞍馬具云雲珠 弁色立成云雲珠 宇須今按雲毋之一名也
（今モ神主トス） 為馬飾未詳
右三首但或書此短歌一首無有載之也
（三字ニ字ヲ誤写トイヘル證ヘ）
特トテミルヘシ古書ハケ様ニメヌメリ様モアリ
ナラヨリイテヽ ミツタテノホ ツ スキテ
（卅一坂鳥ノ朝越ニテ鳥ノ坂ニユトキコトニハリテトルニ故ニツク）
帛積至鳥網張坂手乎過
イハハシルカ ミナ（高市郡） ヤニ アサミヤニツリテ ヨシノヘ
（今ノ城下郡坂手村トス）
石走甘南備山丹朝宮仕奉而吉野部登入座
（神ヲ奈ヲ又吉野ヘ入ハ例ヲ）
ミレハ ムカシオモホユ
（此詞ヲキヽ今ノ俗通所ト云ル様ノ類ヘ）
見者古所念
反歌

（処ヲ）

石走 神功紀此雷電ヲ名ニサクル心ヤ

推古紀十一年元日着髻華 髻華此云于孺宇須 髻花也金銀銅共作ルヤウノ詞ヘ金銀ニテ作ルモ玉トイヘル「フクレ」ヲ研太刀ノ尻ニモ皆金ヲリシ玉ヲクトイヘリ

ツキモヒモカハリコクトモヒザニフル 三 モロノヤマノト

八日攝友久經流三諸之山礪津宮地
（トヨツ宮ヘ常住不変ノ宮トの如シ三モロノ神ノ宮ヲ云）
（此訓不心得若隔ナドテ付キヨヤ）

此歌入道殿讀出給 歟注モ後人ノ書加誤乎

右ノ二首但或本歌曰

ヲノトリテ 大和ノ方ニ向ヤニノキ コリキテ カチヌキイソ

斧取而丹生檜山木折來而幾爾作二楫貫礒
（舟）
コキタミツヽ シニツタヒミレトモアカス ミヨシノ（イカダニツクリ タキモト、ロニキツルシラ

榜廻乍島傳雖見不飽三吉野乃瀧動動落白
（官本ノ方）
ナミ

浪

又歌水
旋頭歌 水古本説

ミヨシノヽタキモトヽロニオツルシラナミヽヤリニ 白波ヲ妹ノ宮ヒシ出ル

三芳野瀧動動落白浪溜西妹見巻欲白浪
イモニミセマクホリ

右二首

八隅知之和期大皇高照日之皇子之闇食御
ヤスミシワカキミノタカテラスヒノ ヒコカミコノ キコシヲスミ

食都國神風之伊勢乃國者國見者之毛山見
ケツクニカミカセノイセノクニハ クニミシハ（脱）モヤマミシ

者高貴之河見者左夜氣久清之水門成海毛
タカクタフトシ カハミレバ サヤケクキヨシ ミナトナスウミモ

廣之見渡鳥名高之已許乎志毛間細美香母
（ヨク処トカ心ヘ）
ヒロシミワタセルシマノナタカシコヲシモ マキ クハシミカモ

挂巻毛文爾恐山邊乃五十師乃原爾内日刺
カケマクモアヤニ（伊勢ノ国ヨリ大神宮ノヘニ通ヒシ道ノ国中カニコキヤマノヘノ） ハラニ ウチヒサス

大宮都可倍朝日奈須浦細
オホミヤヅカヘ アサヒナス（ミルヲヨシト人ノ心ニアヅ） ウラクハシ

毛春山之四名比盛而秋山之色名付思吉百
モ ハルヤマノシナヒサカヘテ アキヤマノイロナツカシキモヽ

（以下二帖為一首）

和名抄三度會郡伊蘇奴曽

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

磯城之大宮人者天地與日月共萬代爾母我

（鳳凰ニ比メ斉宮ヲ始テ神官ノツカヘ奉ルヲ云ニヤ）

反歌

山邊乃五十師乃御井者自然成錦乎張流山

（春花秋紅葉）

可母　此歌入道殿下令讀出給

（是亦後人ノ昏入ヲ注ヤウニコミ昏ルニヤ）

右二首

（河海村下集　春ハ只花ヨシハチ野ヘ無ニ錦ヲハレル山ハマサレリ　黒主）

空見津倭國青丹吉寧山越而山代之菅木之

（樂乎）（仁德紀）

原血速舊于遲乃渡瀧屋之阿後尼之原尾千

歳爾闕事無萬歳爾有通將得山科之石田之

（宇治郡）

森之須馬神爾奴左取向而吾者越往相坂山

（高皇産靈）（社官）

遠

或本歌曰

緑青吉平山過而物部之氏川渡未通女等爾

（丹官）

相坂山丹手向草絲取置而我妹子爾相海之

海之奥浪來因濱邊乎久禮久禮登獨曾我來

妹之目乎欲

反歌

（奈良冠辞宜依此三字解其義上緑青本艸一名碧青）

新撰ニハ此三人不和ウチユユクニハ

近江ニ幡ラシメムルノ後ノ詩ナレ文華秀麗鳥ソル娣(オトリ)ノ翁ヘ

打坂乎打出而見者淡海之海白木綿花爾浪
タチワタル
立渡

右三首

アフミノウミニレラユフバナニナミ
アフサカヲウチイデテミレハアフミノ

近江之海泊八十有八十島之島之埼邪伎安
リタテルハナタチヤソホノエニ(徳神紀ニ鳥シルシ千磯ニキカケナカツエニ)

利立有花橘乎末枝爾毛知引懸仲枝爾伊加
ルガカケニヅエニレメラカケサガハヽヲトラクヲレラ

流我懸下枝爾此米乎懸己之母乎取久乎不
カ鵤(委)ガトヒ(ヲ)レ鵤(ヲ)ト

知已之父乎取久乎思良爾伊蘇婆比座與伊
ズサガチヽヲトラクヲレラニイス(我記)ソバヒヨルヨイ

加流我等此米登
(師ナイシに鳥マヽ)

右一首

オホキミノミコトカレコミミトアカヌナラヤマコエテ

王命恐難見不飽寧山越而
(松木ラシミテ下スヽ)

真木積泉河乃速
キツメルイヅミノカハノハヤキ

瀬竿刺渡千速振氏渡乃多企都瀬乎見乍渡
セヲサヨサヒワタリチハヤブルウヂノワタキツセヲミツヽワタリ

而近江道乃相坂山丹手向爲吾越往者樂浪
テアフミチノアフサカヤマニタムケニテワカコエユケバサヽナミ

乃志我能韓埼幸有者又反見道前八十阿毎
ノシカノカラサキサキアラハマタカヘリミムミチノクマヽソクマゴトニ(神代紀)

嗟乍吾過往者彌遠丹里離來奴彌高二山文
ナゲキツヽワカスキユケバイヤトホニサトサカリキヌイヤタカニヤマヽモ

越來奴劔刀(劔官)靭從拔出而伊香胡山如何吾將
コエキヌツルキタチサヤヲユキイカヾ心ニシバノ

爲往邊不知而
ムユクヘニシラズニ

(崇神天皇四十八年會稽東冶ノ人不和ニ因リ反シテ東海ニ入ル廻ル事七年ニシテ會稽ニ至ル廻ル事七年ニシテ會稽ニ至ル)
(アヅサユミ會稽兄豊城命ト共ニ夢ニ誓ヒ許泰天皇ニ白シ自ラ登御諸山ニ)
(イカヾ心ニシバノ廻ル事七年ニシテ會稽ニ至ル)

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

反歌

天地乎難乞禱幸有者又反見思我能韓埼

右二首但此短歌者或書云穗積朝臣老配於佐渡之時作歌者也

百岐年三野之國之高北之八十一隣之宮爾日向爾行靡闕矣有登聞而吾通道之奥十山三野之山靡得人雖跡如此依等人雖衝無意山之奥礒山三野之山

右一首

處女等之麻笥垂有續麻成長門之浦丹朝奈祇爾滿來塩之夕奈祇爾依來波乃波塩乃伊夜益舛二彼浪乃伊夜敷布二吾妹子爾戀乍來者阿胡之海之荒礒之於丹濱菜採海部處女等纓有領巾文光艤手二卷流玉毛湯良羅爾白栲乃袖振所見津相思羅霜

反歌

阿胡乃海之荒礒之上之小浪吾戀者息時毛無

右二首

天橋文長雲鴨高山文高雲鴨月夜見乃持有越水伊取來而公奉而越得之早物

反歌

天有哉月日如吾思有公之日異老落惜毛

右二首

沼名河之底奈流玉求而得之玉可毛拾而得之玉可毛安多良思吉君之老落惜毛

右一首

相聞

此中長歌一十九首

式島之山跡之土丹人多滿而雖有藤浪乃思纏若草乃思就西君自二戀八將明長此夜乎

反歌

式島乃山跡乃土丹人二有年念者難可將嗟

月ハ尽ノミナリ 宍ノ字ヲ歟 又凡月ヲモスノミテ 月夜ハ兵ト 米ト カ ケロフノタメ

神ナガラ 又八言ア事メルヿモナキト

右二首

蜻嶋倭之國者神柄跡言擧不為國雖然吾者

事上為天地之神毛甚吾念心不知哉往影乃

月文經往者玉限日文累念戸鴨胷不安戀烈

鴨心痛末遂爾君丹不會者吾命乃生極戀乍

文吾者將度犬馬鏡正目君乎相見天者社吾

戀八鬼目

反歌

日本紀ニ天朝ヨリキミカドヨメリ 都城ハ天子ノ所居 故以久堅為枕詞

大舟能思憑君故爾盡心者情雲梨

久堅之王都乎置而草枕羈往君乎何時可將

待

柿本朝臣人麿歌集歌日

神異経曰北方大荒中有獸食人食人則病羅人則疾名曰㺃㺃恙也常近人村落入人屋宇人皆患之黄帝殺之由是北方人方謂得無恙疾謂无恙矣説文曰虫名入腹食人心古人草居被此害故相問无恙乎昏言古𠈰云恙余亮反輟耕録四云戰国策威后問斉使歳无恙耶王亦無恙耶楚辞九辯曰還及君之无恙亂死魏文侯謂倉唐曰擊无恙乎又日子之君无恙乎漢眉之帝詔貢禹云今生有恙何至不已乃上疏乞骸骨聘礼亦日公問君賓對公再拜鄭注云拜其无恙者顧愷之与殷仲堪牋行人安穏布帆无恙隋日本遣使称日出処皇帝致書日没処皇帝无恙神異経曰北方大荒中有獸咋人則病名曰㺃、恙也嘗入人室屋黄帝殺之人无憂疾謂之无恙爾雅曰恙憂也應劭風俗通曰上古之時艸居露宿恙噬人虫也善食人心大患苦之凡相問无恙恙或以為虫或以為无憂廣干録昏兼取憂及虫事物紀原曰兼取憂及獸廣韻㺃字下如師子食人及虎豹恙字下云病也噬虫能食人心是㺃恙二𧚀神異経合而一之則誤矣

反歌

毛見登百重波千重浪爾敷言上為吾

五 脈平 イツヘナミ

重 無言又ニコセトコトアゲスル之

右二首

アキツシマヤマトノクニハ　カミカラト　コトアゲ　セヌ　クニ（神ナオメテ國ナム言挙スルコトモナキ）
蜻島倭之國者　神柄跡　言擧不爲國　雖然吾者
コトアゲス　アメツチノ　カミモ　ハナハダワカオモフコロ（カクシテアラムト）
事上爲天地之　神毛甚　吾念　心不知哉往影乃
ツキモ　ヘ　ユナハ　タマキハル（モノカギリルラム）　ウチノ（髣髴）　モ　カサナリテ
月文經徃者　玉限　日文累　念戸　鴨脛不安戀刻
カモコトロイモヒスエツヰニ　キミニ　アハズ　ハ　ワカイノチノ　イケラムキハミコヒツヽ
鴨心痛未遂爾君丹不會者　吾命乃生極戀乍
モ　ワレハ　ワタラム　ニソ　カミマサメニキ（此詞イカヽ）　タヾ
文吾者將度　犬馬鏡正目君乎相見天者社吾
コヒヤ　マヽメ
戀八鬼目（萬ノ誤半文魔心半）
反歌

キホフ子ノ　キモヒタノオルキミユヘニ　ツクスコトロハ　ヨシケクモナシ（ミシ）
大舟能思憑君故爾盡心者情雲梨
ヒサカタノ　ミヤコヲ　キキテ　クサマクラタヒユクキミヲ　イツカ　マタ
久堅之王都乎置而草枕羈往君乎何時可將
ム　（男ノ旅ニ出タル跡ニテ女ノヨメル哥ト云ヒ此哥ニテモシラレヌ）　ト（神中）
待

柿本朝臣人麿歌集歌曰

アシハラノミツホノクニハ　カミノカラ　セヌ　クニシカレトモコトアケ
葦原水穗國者神在隨事擧不爲國雖然辭擧
ゾ　ワカスルコトサキクマセト　ツヽカナク　サキクイマサハ　アラヽソナミアリテ
叙吾爲言幸真福座跡恙無福座者荒磯浪有
モ　ミムト　モヽヘ　ナミチ　ヘ　ナミニ　（間有テモミシト）
毛見登百重波千重浪爾敷言上爲吾
反歌　（五脱半ノ脱ヘナミ）　重　（過ヨリ又ニマセトコトアケスルニ）

志貴島倭國者事靈之所佐國叙真福在與具

右五首

從古言續來口戀爲者不安物登玉緒之繼而者雖云處女等之心乎胡粉其將知因之無者夏麻引命號貯借薦之心文小竹荷人不知本名曾戀流氣之緒丹四天

反歌

數數丹不思人者雖有暫文吾者忘枝沼鴨

直不來自此巨勢道柄石椅跡名積序吾來戀天窮見

或本以此歌一首爲之紀伊國之濱爾緣云鰒珠拾爾登謂而往之君何時到來哥之反歌也具見下也但依古本亦累載茲

右三首

菟玉之年者來去而玉梓之使之不來者霞立長春日乎天地丹思足椅帶乳根笑母之養蚕

之眉隱氣衝渡吾戀心中少人丹言物西不有
者松根松事遠天傳日之闇者白木綿之吾衣
袖裳通手沾沼

反歌

如是耳師相不思有者天雲之外衣君者可有
有來

右二首

小沼田之年魚道之水乎間無曾人者挹云時
自久曾人者飲云挹人之無間之如飲人之不
時之如吾妹子爾吾戀良久波已時毛無

反歌

思遣爲便乃田付毛今者無於君不相而年之
歷去者

今案此反歌謂之於君不相者於理不合也
宜言於妹不相也

或本反歌曰

楉垣久時從戀爲者吾帶綾朝夕毎

右三首

巳母理久乃泊瀬之河之上瀬爾伊杙乎打下
湍爾真杙乎格伊杙爾波鏡乎懸真杙爾波真
玉乎懸真珠奈須我念妹毛鏡成我念妹毛有
跡謂者社國爾毛家爾毛由可米誰故可將行

檢古事記曰件歌者木梨之軽太子自死之
時所作者也

反歌

年渡麻弖爾毛人者有云乎何時之間曽毋吾
戀爾來

或書反歌曰

世間乎倦跡思而家出爲吾哉難二加還而將
成

右三首

春去者花咲乎呼里秋付者丹之穗爾黄色味

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

三之曰コモリタル口ハハツカシキト云心ニテハツセトツヾク

ミヅカキノヒザシキヨ　トキユ　リコヒスレハ　ワカヤヒユルフ　アサユフ　ゴトニ
楮垣久時從戀爲者吾帶綾朝夕毎
マセオナニテサハ下　緩仲　ヨヒ

右三首

コモリクノハツセノカハノカミツセニイグヒヲウチシモツ
巳母理久乃泊瀬之河之上瀬爾伊杭乎打下
（マスケマキナドノ如シ）　（桑語）
セニ　クヒヲウチイ　クヒニハ　（板ナドスルトキイニヤ）　カヽミヲ　カケマ　グヒニハマ
湍爾眞杭乎格伊杭爾波鏡乎懸眞杭爾波眞
タマヲ　カケマ　タマナス　ワカヤモフイモヽ　（壹紀既ニ）　カヽミヲ　ワカヤモフイモヽ　アリ
玉乎懸眞珠奈須我念妹毛鏡成我念妹毛有
トイハヽコソクニニモイヘニモユカメタレユヘカユカム
跡謂者社國爾毛家爾毛由可米誰故可將行
イヘニモユカメクニヲモシノバメ　古支紀　キ　ナシノ
檢古事記曰伴歌者木梨之輕太子自死之
時所作者也

杭　和名日本紀　古支紀ト異同アリ
杙　本字ニ杭ハ木名見廣韻

反歌

トシワタルマデニモヒトハアリトイフヲイツノマニゾモ。ワカ
年渡麻豆爾毛人者有云乎何時之間曾母。吾
コヒニケル　アリテフ　カラ私　ワレ
戀爾來
ケリ
年久ク渡ナレツフモノモアルニ〳〵秋恋ツメタルハイツノ程ヅイマダ間モナキニ〳〵

或書反歌曰

ヨノナカヲウシトキモヒテイヘデセシワレヤナニニカカヘリテナラ
世間乎倦跡思而家出爲吾哉難二加還而將
ム
成
師說長寄ニ国ニモ家ニモユカメトイヘルハ治定メカヘラサル〳〵シカレハ家出〳〵シニアタリテノカヘラハナニ〳〵カナラマレトヨメルニヤ
詞花雜上　源通流山家月　サヒシサニ家出シヌヘキ山里ヲ今宵ノ月ニ思ヒトヽリヌ

右三首

ハルサレハハナサキヲヽリアキツケハニノホニキハムウマ
春去者花咲乎呼里秋付者丹之穗爾黃色味

此ヨリハ出家シタル人ノ遺俗スル時ヨメルニヤソレヲ誤テ反歌トス

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

酒乎神名火山之帶丹爲留明日香之河乃速
瀬爾生玉藻之打靡情者因而朝露之消者可
消戀久毛知久毛相隱都麻鴨

反歌

明日香河瀬湍之珠藻之打靡情者妹爾因來
鴨

右二首

三諸之神奈備山從登能陰雨者落來奴雨霧
相風左倍吹奴大口乃眞神之原從思管還爾
之人家爾到伎也

反歌

還爾之人乎念等野干玉之彼夜者吾毛宿毛
寢金手寸

右二首

刺將燒少屋之四忌屋爾搔將棄破薦乎敷而
所搔將折鬼之四忌手乎指易而將宿君故赤

子 サスヒルハ 根刺畫者 終爾野干玉之 夜者須柄爾 此床乃
ヒ ト ナルマデ ナケキツルカモ 仙覚抄大隅風土記ヲリ
比師跡鳴 左 嘆鶴鴨 是ハヨヌ女ノ殿ヲ男モメリケルヲヌヨヨヲノ思ニカケテ殿ヲ
ナケキテトコニシクトヒメクリ ナケキノ声ヒキ ヨヲラノリテヨメルナルヘシ

反歌

我情 焼毛吾有 愛八師君爾 戀毛我之 心柄
ワカコヽロヤクモ ワレナリヨヒヤ レ キミニ コフルモ ワカ コヽロカラ

右二首

打延而 思之小野者 不遠 其里人之 標結等聞
ウチハヘテ 思サナヘテ シメユフト オモヒシ ヲノハ トホカラス ソノサトビトノ レメユフト キヽ

手師日 従立良久 乃田付毛 不知居久乃 於久
テ助 レ ヨリタツラク ノタツキモ レラス ヲルラク ノ キク

鴨不知 親親 已之家尚 乎 草枕 客宿之 如久思
カモ シラス ヲヤ〳〵 ノサ ガイヘスラヲ クサマクラタビ子 ノ ゴトク キモフ

空不安 物乎 嗟空過之 不得 物乎 天雲之 行莫
ソラヤスカラヌモノヲ ナケクソラスゴシ エヌ モノヲ アマクモノ ユカムヘク

漠 蘆垣乃 思亂而 亂麻乃 麻笥乎 無登 吾戀流
ヘクニアレカキノ キモヒミタレテ ミタレヲノ ヲヲケヲ ナミト ワカコフル

千重乃一重 母人不令知 本名也 戀牟氣之緒
チヘノヒトヘモ ヒトシレ レス モトナヤ コヒム イキノヲ

爾爲而
ニシテ

反歌

二無 戀乎思爲者 常帶乎 三重可結 我身者成
フタツナキ コヒヲシ レスレハ ツネノオヒヲ ミヘニユフヘク ワカミハナリヌ

右二首

世ムスヘノ タツキノ 爲須部乃田 付呼不知 石根乃 興凝敷道乎 石
世ムスヘノ タツキノ レラニ イハカ子ノ コゴ レキミチヲ イハ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

石床ノ下ハ八ハ石ノスヘタルヲミテイハ成ヘシ居着シカタシ

考謙伝山寺　傘有山田寺也

トコノ（子石根ノ長キ）床笑根延門呼朝庭丹出居而嘆夕庭入居而
キモヒシロタヘノ（叫官）ワカコロモテ（叫官）ヲリカヘシヒトリシ助ヌレハ（黄ミスミニミト）タミノクロ
思白栲乃吾衣袖呼折反獨之寢者野手玉黒
カミシキテ（ヒトノヌルヲミイハ子ズテ）キホフ子ノユクラユクラニ（ユクノタメノ同）
髮布而人寢味眠不睡而（讀十八ノ廿四又考ニヤカテスリ）大舟乃往良行羅二
オモヒツヽワカヌルヨラヲツキモアヘム（ヨミ）カモ
思乍吾睡夜等呼續文將敢鴨

反歌

ヒトリヌルヨヲカヾヘムトキモヘトモコヒノシケキニコロトモナシ
一眠夜筭跡難思戀茂二情利文梨

右二首

（ウツシキヨリノ長流ニ下久仲雲ヲ隠シ代メトス）
モヽタラズ（中ヽタノミテヲ）百不足山田道乎浪雲乃愛妻跡不語別之來
（ナミグモノ）（ト云心ヲ）

考三ノ七ニ馬ツマツク家コフラレモ

十九ニ八十之妹トツヽモ女ノタメトヨメリ

平中ホトハ道ヲイヲヨリ云足引ヨリハ宿ノ帰リヲキテヘリヲ

ハ　ハヤカハノ（ユクヘモ方歟）ナヽレラム（ウマシモノ）
者速川之往文不知衣袂笑反裏不知馬自物
（コヽロシ）（叫官）アメツチニ（キモヒタラハレ（タヽ妹ト）ニアヒ（ミノ合手遍ヲ）
乃心呼天地二念足橋玉（白心ヲカヽヒ出ス）（下三十四）
ナケクヤ（ト云心ヲ）カヽヒキタヽホコノ（ミチクルヒトノ乃尾）
嗟八尺之嗟玉桙乃道來人之立留何常問者
（コヽヘヤルタツキヲレラニ）（サニヅラフ釣乎）キミガナ
苔遠田付乎不知散鈎相君名曰者色出人可
（ヌベミアレヒ）キノヤヽヨリイツルツキニ
知足日木能山從出月待跡人者云而君待吾
（十二下八君ヲ妹ニツクルヘヒトリシカハ此寺ハ女寺ヘ）
乎

反歌

眠不睡吾思君者何處邊今身誰與可雖待不
來

右二首

赤駒廐立黒駒廐立而彼乎飼吾往如思妻心
乘而高山峯之手折丹射目立十六待如床敷
而吾待公犬莫吠行年

反歌

葦垣之末搔別而君越跡人丹勿告事者棚知

右二首

妾背兒者雖待不來益天原振左氣見者黒玉
之夜毛深去來左夜深而荒風乃吹者立留待
吾袖爾零雪者凍渡奴今更公來座哉左奈葛
後毛相得名草武類心乎持而三袖持床打拂
卯管庭君爾波不相夢谷相跡所見社天之足
夜亍

或本歌曰

吾背子者待跡不來鴈音文動而寒烏玉乃宵
毛深去來左夜深跡阿下乃吹者立待爾吾衣
袖爾置霜文氷丹左叡渡落雪母凍渡奴今更
君來目八左奈葛後文將會常大舟乃思憑迹
現庭君者不相夢谷相所見欲天之足夜爾

反歌

衣袖丹山下吹而寒夜乎君不來者獨鴨寢
今更戀友君爾相目八毛眠夜乎不落夢所見

欲

右四首

菅根之根毛一伏三向凝呂爾吾念有妹爾緣
而者言之禁毛無在乞常齋戸乎石相穿居竹
珠乎無間貫垂天地之神祇乎曾吾祈甚毛爲
便無見

今案不可言之因妹者應謂之緣君也何則

反歌云公之隨意焉

反歌

足千根乃母爾毛不謂裏有之心者縱公之隨

意

或本歌曰

玉手次不懸時無吾念有君爾依者倭父弊乎

手取持而竹珠呼之自二賀垂天地之神呼曽

吾乞痛毛須部奈見

反歌

乾地乃神乎禱而吾戀公以必不相在目八方

或本反歌曰

大舩之恩憑而未始已骗遠長我念有君爾依

而有言之故毛無有欲得木綿手次肩荷取懸

忌戸乎齊穿者玄黄之神祇二衣吾祈甚毛為

便無見

右五首

御佩乎劔池之蓮葉爾渟有水之往方無我為

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

堀川百首　顕仲
汀ニハ立モヨラレヌ山
賤ノ影ハツカレキ清
スミノ池

時爾應相登相有君乎莫寢等母寸巨勢友吾
情清隅之池之池底吾者不忍正相左右二

（仁徳紀）

（下心ニヨセタリ）（水ノアフレ出ルニタトフ）

反歌

古之神乃時從會計良思今心文常不所念

（忘）

右二首

三芳野之眞木立山爾青生山菅之根乃慇懃
吾念君者天皇之遣之萬萬或本云王命恐夷離國治
爾登或本云天疎夷治尓等群鳥之朝立行者後有我可

（ヒナサカルクニオサメ）

（ニト）

（ムラトリノ）（アサタチユケハ）（キクレタルワレカ）

（コヒナム）（ナ）（タヒナレハ）（キミカ）（オモハム）（イハム）（スベ）（セム）（スヘ）

將戀奈客有者君可將思言牟爲便將爲須便
不知或書有足日木山之木末尓句也延津田乃歸之或本無歸之句
也別之數惜物可聞

（男ノ旅行ニ女ノヨメルナルヘシ）

（此説可用）

反歌

打蟬之命乎長有社等留吾者五十羽旱將待

（日干宦）

右二首

三吉野之御金高爾間無序雨者落云不時曾
雪者落云其雨無間如彼雪不時如間不落吾

（ヨシノ）（ヽ）（ミ）（カネノタケニ）（ヒマナクソ）（アメハ）（フルトイフトキナクソ）

（ユキハ）（フルトイフソノアメノヒマナキガゴトソノユキノトキナラヌコトヒマモキチズ）（ワレ）

（トキナキカ）

古今惡ヨシノミミテヤミナムカラキヤメカマノ小山羊ノ白ケモ

古京ノ近江ハ天智天皇官トツヾノ間答体ヘ

ハソコフルーモカ一ヘサカ二者曾戀妹之正香爾メ（第四ノ四十六ノ二十六）

反歌

ミユキフルヨシノヽダケニ非ルクモノ三雪落吉野之高二居雲之外丹見子爾戀度カモ可聞

三カケソギ不審

右二首

累行紀五十七年冬十月令諸国奥田部北倉然イツクモ知カタシ

和名栃木知国城下郡三宅 美也

ヤケノハラユ

ウツク美当長流打久津三宅乃原從當土足迹賀夏草乎腰爾ウナヒサスイカナルヤヒトノコ三之是大和ニ後ノニ十四

中云帝ノ誤乎常陸ヒタスクヒタシヒタモ皆常ノ

夏仲長ノコレニテヅミノ辺コシニ

莫積如何有哉人子故曾通簀文吾子諸名ハヽハシラレレバウヘくナチヽハシラレスミチノワタカクキカミニヽ

母者不知諸ヘ名父者不知蜷腸香黒髪丹眞

安康天皇紀大initial皇子對天皇使曰但ス妹階梭易死耳今陛下不察其醜將滿荷葉之教是甚之大恩也

俗云ヤツハチ生スハ歌ヲユフニ似タリ

ユフモテアソブ水草ノツゲノヲクシノ木綿持阿邪左結垂日本之黄楊乃小櫛乎抑ヤマトサヽハヽ諸ニ読

サスタヘノコハソレゾワカツマニ十五刺刺細子彼曾吾嬬ホムル心

和名ニテレク百

反歌

チヽハヽニシラセヌコユヘミヤナギノナツノヽクサクナツミ父母爾不令知子故三宅道乃夏野草乎菜積クルカモ來鴨

右二首

タマダスキカケヌトキナクワカキモフイモニシ助アハ子バアカ子サスヒル玉田次不懸時無吾念妹西不會波赤根刺日ハレニヌバタマノヨルハスガラニイモ子ズニイモノ者之夜者酢辛二眠不睡爾妹

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

戀丹生流爲便無

反歌

縱惠八師二二火四吾妹生友各鑿社吾戀度

七日

右二首

見渡爾妹等者立志是方爾吾者立而思虛不

安國嘆虛不安國左丹涑之小舟毛鴨玉纏之

小檝毛鴨搒渡乍毛相語妻遠

或本歌頭句云

已母理久乃波都世乃加波乃乎知可多爾伊

母良波多多志已乃加多爾和禮波多知氐

右一首

忍照難波乃埼爾引登赤曾朋舟曾朋舟爾綱

取繫引豆良比有雙雖爲曰豆良賓有雙雖爲

有雙不得叙所言西我身

右一首

神風之伊勢乃海之朝奈伎尓來依深海松
奈藝爾來因俟海松深海松乃深目師吾乎俟
海松乃復去又都麻等言不言登可聞思保世流
君

右一首

紀伊國之室之江邊爾千年障事無萬世爾
如是將有登大舟乃思恃而出立之清瀲爾朝
名寸二來依深海松夕難伎爾來依繩法深海
松之深目思子等遠繩法之引者絶登夜散度
人之行之長爾鳴兒成行取左具利梓弓弓腹
振起志之岐羽矣二手挾離兼人斯悔戀思者

右一首

里人之吾卅告樂汝戀愛妻者黄葉之散亂有
神名火之此山邊柄彼山邊烏玉之黒馬爾乘
而河瀬乎七湍渡而裏觸而妻者會登人曽告
鶴

反歌

不聞而然黙有益乎何如文公之正香乎人之
キカズシテモタレ　アラマシヲ　ナニシカモ　キミガ
ツケツル　告鶴　（古本黙然）

右二首

問答

物不念道行去毛青山乎振放見者茵花香未
モノオモハ　テミチユキナムモ　（同句）　アヲヤマヲ　フリサケミレバ　ツヽジバナ　ニホヘルヲ
通女櫻花盛未通女汝乎曽母吾丹依云吾叫
トメ　サクラハナサカヘルヲトメ　（又云ヲトメ）　モトナゾ　ナレニ　（ヨルトイフヤマヒモ）　ヒトシレ
毛曽汝丹依云荒山毛人師依者余所留跡序
モソナレニ　（昊公）　ヨルトイフ　アラヤマモ　ヒトシヨルレバ　（菌　和名云オカウジ　ニツヽジ）　アヨシ（アリサマ〻渡ル下云訛ノアレヨ一此手ノ三ノ句ノ知ノ下ノ次ニ或本ニハ始ノ然有社ノ下ニ者次ニ一首ヲ載ス此本ノ説共ニ不審次第ノ心合ニ非ス今知漏ノ案者長手又手ノ句ニ者之手ノ志以可ノ句ノ説ク彼云此右六首ヲ者之者歟）

（神木寺三ケ田ニ〻ヒヤツリヤトロケヤヤツカフモノモハヌリヤトロケヤ何トモ思ハテ道ヲ行アヒテノ意也）

（此ノ下ノ次ニ或本ニハ始ノ然有社ノ下ニ者次ニ一首ヲ載ス此本ノ説共ニ不審次第ノ心合ニ非ス今知漏ノ案者長手又手ノ句ニ者之手ノ志以可ノ句ノ説ク彼云此右六首ヲ者之者歟）

（師云此手ノ説ニ疑ヒ昔ヨリ脱句ナシト有ケレヤ是ハ女ノ返シ下ノ人名集ノ手ハ此問答二首ヲ云ヘリ）

（本ハ此ノ下ニ一日ハタム多クセヨアラキノ道ノ云ノ歌ヲ入レリ今ハ次ノ歌ニ入ル）

云汝心勤
（範政宣私云此問答ノ歌ノ内最初ノ物不念ノ長手ノ反手何為而トヨリ然有社手乃八歳叫トヽ云迄一首ノ如長手眉建手然ノ反手ト云ノ世一手ノ此長手叫ノ句ノ心ハ思益ニテヲ一首眉建之而自然有社ノ反歌ノ始ノ用之者天地之神尾母ノ手別ノ答手ノ反手ノ句ヘ）

反歌

イフナカコヽロユメ　（我ヨルヲバヨセヨトヽ）

何為而戀止物序天地乃神乎禱迹吾八思益
イカニシテ　コヒヤムモノゾ　アメツチノ　カミヲ（ノ）イノレド　ワレヤ　（ヒトニハ）　オモハヌ（ヒトヽ）ス
然有社歳乃八歳叫鑽髪乃吾同子叫過橘未
（底ノ三之曰ノ下ニ點リシホトニヲスルヘシ）　シカアレコソトシノ（年ノ宜）ヤ　トセヲ　（カミソギ也）　キルカミノ　ワカ　ニ　ヲ　（スヘカラクチハナノホツ）　エヲ　スキテ　コノカハノ　（胴手）　ナカクトモ
枝乎過而此河能下文長汝情待
（人ノ愛ス物ニヨセテ此ヌシヲ自ラ況ス）　エダヲスキテ　コノカハノ　シタフミナガク　キミガ　コヽロマテ

天地之神尾母吾者禱而寸戀云物者都不止
アメツチノ　カミヲモ　ワレハ　イノリテキ　コヒテフモノハ　スヘヤマス
來
（次ノ或本ニハ始ノ然有社乃ノ如此本ノ反手ノ下ニ者次ノ一首ヲ載ス此本ノ説共ニ不審次第ノ心合ニ非ス今知漏ノ案者長手又手ノ句ニ者之手ノ志以可ノ句ノ説ク彼云此右六首ヲ者之者歟）　キタリ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

柿本朝臣人麿之集歌

物不念路行去裳青山乎 振酒見者都追慈花

爾太遥越賣作樂花在可 遥越賣汝乎叙母吾

爾依云吾乎叙物汝爾依 云汝者如何念也念

社歳八年乎斬髪與和子 過橘之末枝乎須

具里此川之下毋長久汝心待

右五首

隠口乃泊瀬乃國爾左結婚丹吾来者棚雲利

雪者零来奴左雲理雨者落来野鳥雉動家鳥

可鶏矣毛鳴左夜者明此夜者旭奴入而且将眠

此戸開為

反歌

隠来乃泊瀬小國爾妻有者石者履友猶来来

隠口乃長谷小國夜延為吾大皇寸與奥床仁

母者難有外床丹父者寢有起立者母可知出

行者父可知野于玉之夜者昶去奴幾許雲不

式出雲国造神賀詞曰麻蘇比乃大御鏡乃面乎意志波當加志天見行事能已登久

同

念如隱孋香聞（コトナラヌコモリツマカモ）（自カノイヲ云乎又丈ヲ云カ）

反歌

川瀬之石迹渡野于玉之黒馬之來夜者常二（カハノセ ノ イハト ワタリテヌ ハ タマノ ロ マノ クルヨ ハ ツ子ニ）（泊瀬）

有沼鴨（アラヌ カモ）（思フ様ニアハレヌヲナケキテヨメリ）

右四首

次嶺經山背道乎人都末乃馬從行爾已夫之（ツギネ フ ヤマシロノミチヲ ヒトツ マノ ウマヨリユクニ サガツマノ）（正字）

歩從行者毎見哭耳之所泣曾許思爾心之痛（カチヨリユケバ ミルコトニ子 ノミシ助 ナカル ソレ ソノ処ニイハ秋ノカチヨリユカメ ソコ モヒニ コヽロシ イタ）

之垂乳根乃母之形見跡吾持有真十見鏡爾（シ タラチ子 ノ ハヽノ カタミ ト ワガモタル マ ソ ミ カヽミニ）

延喜式第五十雜式云凡山城国泉川樺井渡瀬者官長率東大寺工等毎年九月上旬造假橋云々

是迄三首女ノ哥之

此一首男答哥

蜻領巾負並持而馬替吾背（アキツ ヒレ オヒソヘ モチテ ウマカヘワカセ）（蜻羽ノ如ナルヒレ）（女ノ馬上ヨリ見テ夫ノクルシムヿヲカナシミテノリカヘヨト云ヘ古哥ハ同ノクハシカラヌヿ多シ）

反歌

泉河渡瀬深見吾世古我旅行衣蒙沾鴨（イツミカハワタルセ フカミ ワカセ コ ガ タヒユクゴロモヌレニケリ カモ）

或本反歌曰

清鏡雖持吾者記無君之歩行名積去見者（マソカヽミモタレドワレハ カヒナキ ソノシルシナキヿハト下ヘ断ル シルシナシキミガ カチヨリナ ツミサルミレハ）

馬替者妹歩行將有縱惠八子石者雖履吾二（ウマカハヘハ イモカ チ ナラム ヨシヱ ヤシ イシハ フムトモワレフタリ）（ユカム）

行

右四首

木國之濱因云顯珠將拾跡云而妹乃山勢能
山越而行之君何時來座跡玉桙之道爾出立
夕卜乎吾問之可婆夕卜之吾爾告良久吾妹
兒哉汝待君者奥浪來因白珠邊浪之緣流白
珠求跡曾君之不來益拾登曾公者不來益久
有今七日許早有者今二日許將有等曾君者
聞之二二勿戀吾妹

反歌

杖衝毛不衝毛吾者行目友公之將來道之不
知苦
直不往此從巨勢道柄石瀬蹈求曾吾來戀而
爲便奈見
左夜深而今者明奴登開戸手木部行君乎何
時可將待
門座郎子内爾雖至痛之戀者今還金

右五首

譬喩歌

古事記
天之品級之階ノ下ノ段ノ名ノ如クアノ段ノ名ノ如クタチヤウニ湖水ノサナミノ立ヨル事ノシルシニテタユタヒモ近江ノ枕詞ニシタタラ近江ノツクマトツクナルヘシテルヤホトヽキスモ品照ルヘシ照ハ称美詞

師名立都久麻左野方息長之遠智能小菅不
（付ケツクマ野ノカタニ息長ノ遠智ノ小菅ガタケキナカノ）（師名乎　タテルツク近江ノ郡名ニ　タクマ　息長墓延喜式廿一諸陵式在近江坂田郡ニ舒明天王ノ祖母ノ廟　息長トツヾケ心ニ　ナカノ発語カリモテキ　トホチノ遠乎）

連爾伊苅持来不敷爾阿乎
（ユミニアミテモシカメニ　ユミヲアミテモカリモテキ　シカナクニ　スケアニ　笠ニ）

令偲息長之遠智能子管
（スケノ私ニ後ニ偲ヒ又民ノ遠ツノナラメラナケノ心ニ）

右一首　菅ノ女ニ比ス

挽歌

此ヨリ以下三首高市皇子尊薨シ玉ヒテ後舎人ヨミテノ誄ノ奉ル之

挂纒毛文恐藤原王都志彌姜爾人下滿雖有
（カケマクモアヤニカシコシラチハラノミヤコシミヽニヒトハシモアレ）（皇子尊ノ多ク宮ノ内ニモオホクイマセドモ　助）

君下大座常往向年緒長仕来君之御門乎如
（キミカトヲユキムカフトシノヲナカクツカヘキナキミカミカトヲアケノ）

古事記仲哀段御陵ヲタヽハベトコフルヽ
神代紀白銅鏡弘記宝鏡ヲ吾ヲ見ヨト云ヒシ
日本紀一書ニ天皇ノ霊ノ宮ニ居シ玉ヒシ
美合ノ君ハ須ケ置音通用故ニ或ハ麻須美
素盞嗚尊ノ御名猶素盞嗚尊ノ子孫相通

タヽリノ太高　神代紀　日本紀

ゴトアラキテミツヽオソルヽトオモヒタヲヤメテ

天仰而見乍雖思憑而何時可聞臣足坐而
（天ヲ仰ギテ見ツヽカシコケドト　未皇子尊ハ御カ天皇ト　モ）

十五月之多田波思家武登吾思皇子命者春
（三五月ノ満チ闕ケヌルヲ　ハ　ミ　ケム　ト　ワカオモフミコノ　ミコトハ　ハル）

避者雖槻於之遠人待之下道湯登之而國見
（サレバ　今ノ都山ウエツキノウヘノ　遠方ノ行ク人待ツトテ松ノ木ツヒトツナリトモ　ノホラシテ　クニミ）

所遊九月之四具禮之秋者大殿之砌志美彌
（アソハセナカツキノミクレノアキハ　オホトノヽ　ミキリシ　ミ）

爾露負而靡芽子乎珠手次懸而所偲三雪零
（ニツユヲヒテナヒケルハギヲタマノテダスキカケテシノハセミ　ユキフル）

冬朝者刺櫛根張梓矣御手二所取賜而所遊
（フユノアシタハ　サスヤナキ子　大落ヵ　ニ　トラシ　タヘヒテ　アソバシ）

我王矣煙立春日暮喚犬追馬鏡雖見不飽者
（ワカオホキミヲ　カスミタツハルノヒクラシ　ヽ　カケ　ミレドアカヌ子　バ）

萬歳如是霜欲得常大船之憑有時雨涙言目
（ヨロツヨニ　カクシモ・ガナト　キホフ子ノ　タノメル　トキニ　ナクワレカメ　ワヽ　ナミダ　下上）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

（カクハ玉ノ子尼カクレ玉ノ條三覚光トヨミテ於目カ七連皆ミナセリ）

昔ハ女モ三首ノ内ノ第二首ノ雪者白也ノ十一歌白久云之企多徳是ノ

武烈天皇三年十一月誤大伴室屋大連発信濃国男丁作城像於水派邑切用城上延喜式高市皇子墓在大和廣瀬郡

第三句通伝師説名室ヲ尓立在松樹故平見者昔今平相見如之

カモ　ヨヘルヒホトノヲ・フリサケミレハ（レロタ）（ヘノカサリニツリテ）（ウチニ）（サス）
鴨迷大殿矣振放見者（白妙ニ）（タヘノホニアサキヌキルハ）（ユメカモヤウツ、ニカモヤトモ）
三ヤノトチリ
宮舎人方一云雪穂麻衣服者（ユメニカモ）夢鴨現前鴨跡
（ヨノヒトニアサモキトヨヘルホトニアサモ）（ヨイキノタヘギヨリツノサハフイハホレ）
雲入（七四）夜之迷間朝裳吉城於道従角障経石村
（ヨヘルホトニアサモ）（タツキノ）（シラニ）（オモヘトモ）
乎見乍神葬葬奉者往道之田付叫不知雖思
（カミハフリ）（ナケキ）（ミツヲ）（シレラニ）
印乎無見雖莫與香乎無見御袖往觸之松矣
（タツ、キコトニアニノハラフリサケミツ、）
言不問木（松皮）雖在荒玉之立月（日並）毎天原振放見管
（皇子ヲ見奉レ様ニ歌テ）
珠手次懸而思名（思ニテ白切名ハ妹カコトニレナトイヘルナ）雖恐有
反歌

（四ニ、ソカ、ミトギレ心ト云男女ノケガニメニテ劍ト鏡トカカリテ左ノ心ハ同ト云心ハ同）

右三首高市皇子ヲ石村ニ葬時ノ作ホ二巻城上殯宮之時柿本人丸哥上可見

角障經石村山丹白栲懸有雲者皇可聞
（ツノサハフ）（イハムラヤマニ）（シロタヘノカ、レルクモハ）（キホキニカモ）
右二首
（キミニヤトノクニニ）（イカサニオホシ）（メサカ）（ツレ）（モ）（ナケキ）
磯城島之日本國爾何方御念食可津（サニキ）禮毛無
（キノヘノミヤニ）（オホトノヲ）（ツカヘ）（マツリテ）（トノタモリコモリイニセハ）（アレタニ）
城上宮爾大殿乎都可倍奉而殿隠隠在者朝
（メサレテ）（ツカホユフヘニハ）（トノモリノコ）（ラ）（座間ハ）（ユク）
者召而使夕者召而使遣之舎人之子等者行
（ハ）（ツルギタチトギシ）（コロヲ）
鳥之羣而待有雖待不召賜者劔刀磨之心乎
（トリノ）（ムラカリテ）（マチアリニテド）（メシタマハネハ）
天雲爾念散之展轉土打哭杼母飽不足可聞
（アマクモニ）（キモヒチラシ）（コヒマロビ）（アキタラヌ）（カモ）
右一首

百小竹之　主野王金廬立而飼　駒解廬立而飼
コマクサコソハ　トリテカヘカニミツコソハ　クミテ　カヘカニナニ　助
駒草社者取而飼早水社者　掘而飼早何然大
ケノウマノイハヘタニツル　馬主ヲシラマ　此主水於栗雜心得古哥之体ニシテトリテ可見
分青馬之　鳴立鶴　神来其駒　ソコマヤー　松ミサカアー　革ハトリカー　水ハトリカム
馬ノ声ハイトヨク本トセリイノナクトヨシイナ、クトヨイラホヨヒライハエルトヨ
反歌　依手色色　恵慶法師
ケトワク白妙　也長寿雪
コロモデノアヲ　生雑和
衣袖大分青馬之　贓音情有鳧常從異鳴

右二首

男ノ旅行セル旅宿ニ九月比死ニ跡ニトヨリヌル妻ノ嘆テヨメリト云
タナヒク　ニノアヲクモノ
白雲之棚曳國之　向伏國乃夫雲下有
ヒトハ　天ニ妻木ノ物思フ者ハアラジトワレノミカモキミニ　三カモ　キツヽニ　コフレバ
人者妾耳鴨君爾　戀盤吾耳鴨夫君爾　戀禮薄

アメツチニコトバヲミテノ、コヽロカモムチノ　ヤミタル　オモヘカモコヽロノ　イタキワカコヒソ　吾良
天地滿言戀鴨胷之病有念鴨意之痛妾戀叙
ヒニケニ　ニサル　イツハシモ　此八句詩ノオモヒニヨリヌ　コヒヌトモ　トキト　アラ子　トモコノ
日爾異爾益何時橋物不戀時等者不有友是
ナカツキヲ　ワカセコカ　ニノビニセヨ　トチ　トセニ　モ　ニノヒワタレ
九月乎吾背子之偲毋爲與得千世爾物偲渡
トヨロツヨ　ニ　カタリツガ　継ヘ　ト　ハレメテル　助　レ　コノナカツキノスキマク
登萬代爾語都我部等始而之此九月之過莫
ヲイトモ　スベナミ　アラタマノ　自是以下上ナカスナ
乎伊母爲便無見荒玉之月乃易者將爲須
ヘタド　キヲ　ニラニ　イハガ子　ツキノカハレハ　九月ヨリ十月ニ比ベ　十四世　十七世　十世
部乃田度伎乎不知石根之許凝敷道之石床
ノ子　ハヘルカトニ　アサニハニイヲ井　座宜テ　ナケキユフニハニイリ井　コヒツヽヌハ
之根延門爾朝庭出居而嘆夕庭入座戀乍鳥
タヽノクロカミニキヲ　ヒトノヌルウチヽイ　ハヲ　ズニ　キホフチノユク
玉之黒髪敷而人寢味寢者不宿爾大船之行

良行良爾思乍吾寢夜等者數物不敢鳴

右一首

隱来之長谷之川之上瀬爾鵜矣八頭漬上瀬

爾鵜矣八頭漬上頼之年魚矣今咋下瀬之鮎

隱来之長谷之山青幡之忍坂山者走出之宜

山之出立之妙山敘惜山之荒巻惜毛

高山與海社者山隨如此毛現海隨然直有目

人者亢物曽空蟬與人

右三首

王之御命恐秋津島倭雄過而大伴之御津之

濱邊從大舟爾真楫繁貫且名伎爾水手之音

為乍夕名寸爾楫音為乍行師君何時来座登

良行良爾思乍吾寢夜等者數物不敢鳴
ラユクラニオモヒツヽワカヌルヨラハカソヘモアヘヌ物ヤ鴨（ヨミモ）（ウ手本）
（上十五十希鴨メリコモ鴨ノトトマリ設予）

右一首

隱来之長谷之川之上瀬爾鵜矣八頭漬下瀬
コモリクノハツセノカハノカミツセニウヲヤツヒタレカニツセノアユ
（鳥ケ物ヲ数ン時ニ頭ニ頭ト云ヘヤ九史記三皇本紀）
爾鵜矣八頭漬上瀬之鮎
ニウヲヤツカミツセノアユ（オキミオキテ又ヨリ）
矣令吹麗妹爾鮎遠惜投左乃遠離居而思空
ヲクハシ人クハシ（古事記ニ妙ニ同ヘ）（アタラキヲ水門）イモアタラシキミトミヅノ
ヤスカラナクニナケクソラヤスカラナクニキヌコソルハサ（井矢ト同ク矢ヲ投ル神代紀和名ソレヤレヌレハ又ニ作）トホザカリ井テオモフソラ
不安國嘆空不安國衣社薄其破者縫乍物又
モアフトイヘタヽコソハヲノタエヌレハリツヘ（四十二）
毋相登言玉社者緒之絶薄八十一里喚雞又
モアフトイヘヽタモアハヌモノハツヽニ（冊平三之八高ニ作）アリケリ
物逢登曰又毛不相物者巍山志有來

（夫ノ河狩トニ行ク由ヲ其ノ交ン（ニ）ヤ）
（才無伊平佐 五音考ニ云ニ天二天也 神武紀ニ天二天ヲ合ス）
（自ラ牀テ矢ノ遠ク行如ク遠ク居）

和名云城上郡長谷（波都勢）
忍坂（於佐加）

（夫ノ筑紫（司王ノ下テ身マリ允ニ妻ノヌメル）

隱来之長谷之山青幡之忍坂山者走出之宜
コモリクノハツセノヤマアヲハタノオシサカヤマハハシリデノ（ヨロシキ）
（長流ル走出テ宜出ヌヲヨキ山ト水ノ心雄略紀）
山之出立之妙山叙惜山之荒巻惜毛
ヤマノイテタチノタヘヤマソアタラシキヤマノアラマキヲシモ
高山與海社者山隨如此毛現海隨然直有目
タカヤマトウミコソハヤマノヽニカクモウツヽヒトウミノヽニカヌヘヌヘナラメ（ホ）
（顕ハス三代ノ心 十四 十三 十八 廿）
人者充物曾空蟬與人
ヒトハアタモノゾウツセミノヨ（世）ニヒト（花宮ノ仇ニ九）

右三首

王之御命恐秋津島倭雄過而大伴之御津之
キホキミノミコトカシコミアキツシマヤマトヲスキテオホトモノミツノ
濱邊從大舟爾真楫繁貫且名伎爾水手之音
ハマヘユヌホフネニマカチシヽヌキアサナギニカコノキト
為乍夕名寸爾楫音為乍行師君何時來座登
シツヽユフナギニカチヲシツヽキミイツキマストト

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

キホユフケ　オキテ　イハヒワタルニ　カコトヤ（敬テ過スト云ヒトノ可見）
大タト置而齋度爾　枉言哉人之言鈎我心盡（筑紫）
ノヤマノ　モミチハノ　チリテスギヌ　ト句キミカ　タバ　ヲ釣ヰ
之山之黄葉之散過去常公之正香乎
反歌
マガコトヤ　ヒトノ　イヒツルタマノヲノ　ナカクト　キミハ　イヒテ勘シ　モノ
枉言哉人之云鶴玉緒乃長登君者言手師物
ヲ
乎

右二首

タマ　ホコノ　ミチユキヒトハ　アシヒキノ
玉桙之道去人者足檜木乃
ヤマユキノ　ユキヒタス（此訓不心得）　カハ
山行野往直（海ニ出ル処ヲ川類下ハ海ナルヲ云カ）海川
カヨコミヤ　カミノ（神鳴）　ワタリハ　フク
通神之渡者吹

風母和者不吹立浪母疎不立（和ニ）跡座浪之立寒
カゼモ　ノドニハ　フカズ　タツナミモ　オホニタヽズ　アトイナミノ　フサケリ　メチセク
道麻誰心勞跡鴨直渡異六（渡テ渡リ損ソ）
ミチヲ　タカ（妻ナトノ待佗ヲヤ）　キコユルウミニ　タカヤヽヲ　（蒸ハカクノミセヌヘシ）　トヒトニ　ワタキトナシテ　キヽツモ　ヲヽクラト
鳥音之所聞海爾高山障所爲而奥藻丹枕
トリノコヱ　ノ　ナシテカ　ハノ　キヌヽキヌ　ニ
所爲蛾葉之衣浴不服爾不知魚（蒸）取海之濱邊
イサ　ナトリウミノ　ハヽヘ　ニ　ウラモ　ナク　子テ　アルヒトハ　（心ナシ則蒸ノ誤）　ハ、チ、ニヽ　ナゴニカアラ
爾浦裳無所宿有人者母父爾眞名子爾可有
ワカクサノ　ツヽカ　アリケム　オモハヒキコトヅテヤ　ト　イヘトヘバ
六若蒐之妻香有異六思布言傳八跡家問者
イヘヲモ　ツゲズ　ナヲトヘドナ　ダニモ　ツゲス　ナクコノカトコトダニ
家乎母不告名問跡名谷母不告哭兒如言谷
ツゲズ　キモヘドモカナシキモノハ　ヨノナカナレヤ　（ナスヒト本ニ）
不語思鞆悲物者世間有
ツヽ　アリケリ

古事記上云故大国主神坐出雲之御大之御前時自波穂乗天之羅摩船而剥毛皮為衣服有帰来神仁徳紀云皇后秀之衣衣虫衣虫衣ヲキテ和名抄云蚊文蛾音峨蛩蚊ノ属也

席薦ナトヲシキ　皇極紀
鴛鳥ミヤトリノカリカネ　ウラサヒテ
乎　景行紀

下世二重出

反歌

母父毛妻毛子等毛高高二来跡待異六人之
ハヽチヽモ ツヽモ コドモヽ タカ〳〵ニ コムト マチケム ヒトノ
カナシサ

悲沙
アレロ キ ノ ヤヽヂ ハ ユカム カセフケハ ナミノ フサゲルタミヂ ハ

蘆檜木乃山道者將行風吹者浪之塞海道者
ユカゴ タチヤクベシ

不行
アリカヽミ

清少納言ガトヤセキノトヽ云ル処ニ舟ノ通トテサヽクカ花中ニ思ヘル舟ニノリテアリクベキヨシキヽトヽユル猶オボエ

或本歌

備後國神嶋濱調使首見屍作歌一首并短
ビヨ カミシマノハマツキ ノオウト 使主 日本紀

歌

神名帳備中国小田郡神嶋神社

上ノ神ノ濱ミルベシ

綾拾遺 萬中納言資実 神嶋ノ波シヅエフカケマクモカシコキミヨノタメレトカミ

タヽホコノ ミチニ イテタチアシヒキノ ユキヤヽユキヒタスカハユキワタリヌル

玉桙之道爾出立薦引乃野行山行濱川往渉
キモト同ボ ニハフカス タツ イサナトリウミチ ニ イテヽ フクカセモ キモト同ボ

鯨名取海路丹出而吹風疾丹母穗丹者不」吹立
ナミモノドニ ハタヽズ カシコミヤカミノ ワタリノ レキナミノ ヨスル

浪裳貴跡丹者不起恐耶神之渡乃敷浪乃寄
ハヽヘ ニ タカヤヽヲヘ タテニ オキテ イルフチヲ ニクラニ ニキテ

濱邊丹高山矣部立丹置而沖潭矣枕丹巻而
ナコ ニ ヤマヲ ヘ タテニ ヲキテ ヲフラモ ナクフシ ヲカ キミハ ハヽチヽガ ヽナコ ニ 名処ドモ アラム ワカクサ

占裳無寝爲公者母父之愛子丹裳在將稚草
ノツヽモ アラム トイヘトヘドイヘヽチヽモ イハズ ナヲトヘド

之妻裳將有等家問跡家道裳不云名矣問跡
ナ ダニモ ツゲズ タガ コトヲ イタハシトカモユフナミノ カシコキウミヲヲタヽ

名谷裳不告誰之言矣勞鴨腫浪能恐海矣直
ワタリケム メタヽナミ カシコキ高名ノ歌ニ処ナケミナンヘシ又皇波乎又ヽ鷹ノ誤乎ヲ

渉異將

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

反歌

母父裳妻裳子等裳高高丹來將跡待人乃悲
家人乃將待物矣津煎裳無荒礒矣巻而偃有
公鴨

汭潭偃爲公矣今日今日跡將來跡將待妻之
可奈思毋

汭浪来依濱丹津煎裳無偃有公賀家道不知
裳

右九首

此月者君將来跡大舟之思憑而何時可登吾
待居者黄葉之過行跡玉梓之使之云者螢成
髣髴聞而大士乎太穂跡立而居而去方毛不
知朝霧乃思惑而杖不足八尺乃嘆嘆友記乎
無見跡何所鹿君之將座跡天雲乃行之隨爾
所射完乃行文將死跡思友道之不知者獨居
而君爾戀爾哭耳思所泣

反歌

葦邊往鴈之翅乎見別公之佩具之投箭之所

思

右二首但或云此短歌者防人妻所作也然則應知長歌亦此同作焉

敷見者雲井所見愛十羽能松原少子等寧和出將見琴酒者國丹放嘗別遊者宅仁離南乾坤之神志恨之草枕此羈之氣爾妻應離哉

反歌

草枕此羈之氣爾妻放家道思生爲使無

或本歌曰羈乃氣二爲而

右二首

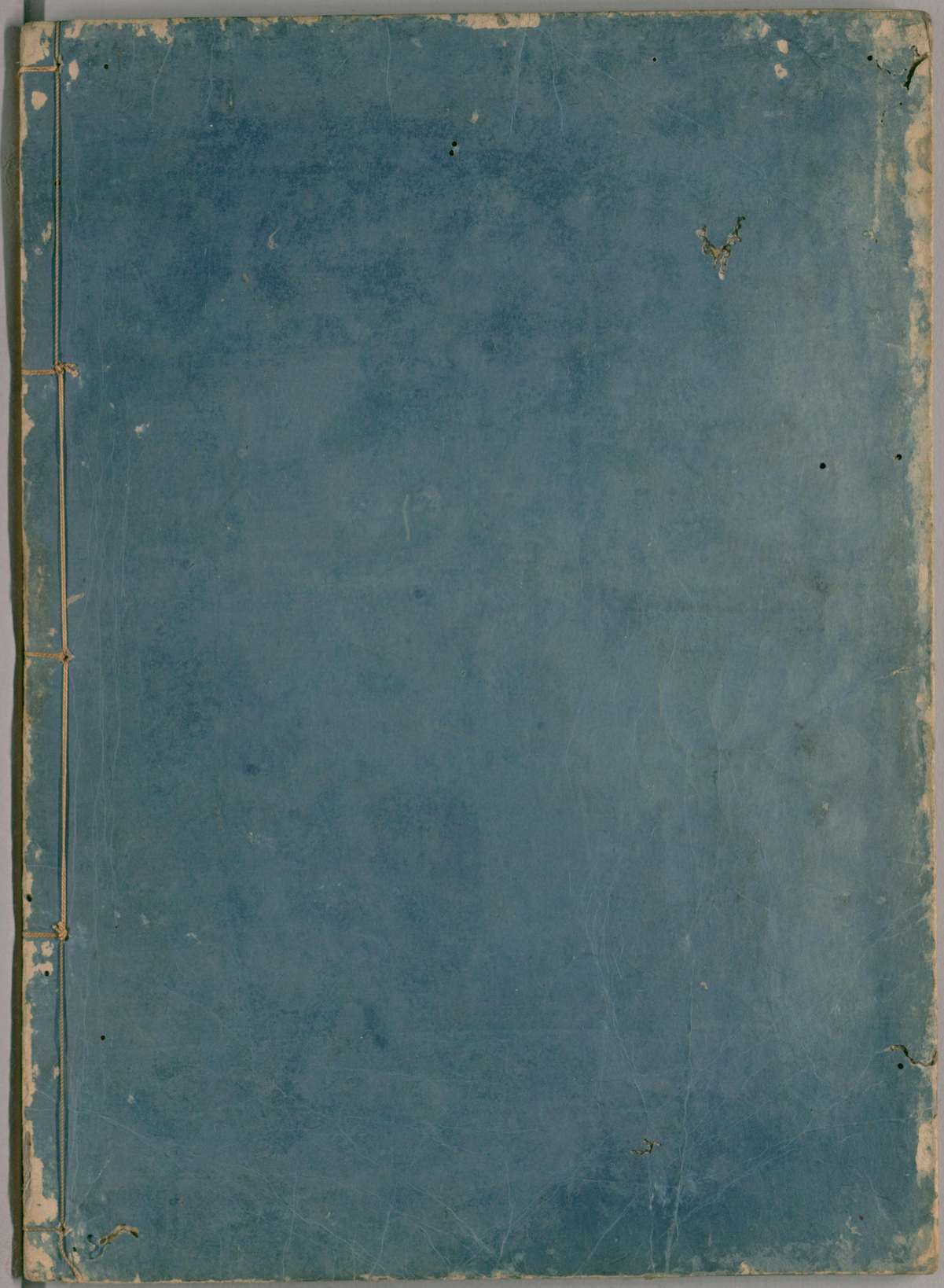
国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

857
47

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『万葉和歌集』　請求記号　857-47

ガラス使用